

国債整理基金による既発国債の買入（買入消却等）の活用方法等について

- 論点メモ -

- どのような目的で行うことが想定されるか。
 - (1) 市場流動性の向上
 - (2) イールド・カーブのスムージング
 - (3) ネット発行額の調整
 - (4) コスト・アット・リスク分析に基づく負債構成の適正化
 - (5) 国債償還の平準化
 - (6) 国債整理基金の余資運用
- 買入銘柄をどう選定すべきか。
- 買入の金額・頻度・タイミングについて、どう考えるか。
- 買入銘柄の選定等の方法について、どの程度の対外公表を行うべきか。
- 個々の買入について、どの程度事前にアナウンスを行うべきか。
- その他、留意すべき事項として、どのようなことが考えられるか。

(参考) 「国債管理政策の新たな展開」(15年12月)(抄)

「既発国債の流動性を維持・向上させるため、複数銘柄の既発国債の同時入札・追加発行、買入消却の新たな目的のための積極的活用等の新しい措置を、『国債市場特別参加者』制度の導入にあわせて導入する。」

— 諸外国における買入消却等 —

米	英	仏	西
○ 財政状況が改善し国債の要発行額が減少する状況において、全てのマチュリティ・ゾーンにおける新規国債（ベンチマーク銘柄）の発行額及び発行頻度を維持する目的で、国債発行額の減額及び発行頻度の減少の代わりに買入消却を実施。その際、ベンチマーク銘柄の発行額及び発行頻度の維持により米国の国債市場の流動性向上、長期的な発行コストの軽減及び資本市場の効率性向上も図る。	○ 財政状況が改善し国債の要発行額が減少する状況において、または、予想外に財政収支が好転し国債の要発行額が当初の想定より減少する場合に、新規国債（ベンチマーク銘柄）の発行額を維持する目的で、国債発行額の減額の代わりに買入消却を実施。その際、流動性が低い銘柄を買入し、英国の国債市場の流動性維持も図る。 ○ 期近債の買入及び買入銘柄と比較して残存年限が長い銘柄の発行により、当面の国債償還額の平準化及び特定日への償還額の集中の回避を図る。	○ 市場流動性及び市場価値が低下している又は今後低下する惧れがある既発銘柄を買入。 ○ 理論的に適正なイールド・カーブを算出し、適正価格と比較して割安な銘柄の買入等を実施。裁定取引によるコスト軽減を図る。 ユーロ圏の他国の国債と比較してフランス国債のイールド・カーブ及び市場価格を適正化し、フランス国債の魅力向上及び中期的な発行コストの軽減も図る。 ○ 国債償還額が比較的少ない年度に、多額の国債償還が見込まれる年度に償還される銘柄の買入及び国債発行を実施。各年度の国債の償還・発行額の平準化及び年度間の発行コストの平準化を図る。特定日への償還額の集中を回避する目的で買入消却を実施。	○ 特定日への償還額の集中を回避する目的で買入消却を実施。